

茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：5月1日（火）16：10～16：21

場所：タイ・バンコク

（茂木大臣）

先程ソムキット副首相をはじめ、タイ政府の関係者とお会いしまして、TPPの問題、さらには日本とタイの協力関係について、非常に前向きな話をさせていただきました。ソムキット副首相から改めてTPPにタイとして是非参加したいと、強いコミットメントが示されたところであります。同時にタイ国内において、ソムキット副首相の指示のもとで、各省庁で参加に向けた様々な準備も進めているという話がありました。私の方から、TPP 11、日本が主導してここまでまとめてきた、早ければ来年早々にも発効の見込みであると。TPPが発効した後は、このTPPのハイスタンダードでバランスの取れた21世紀型のルールを世界に広げていくことが視野に入ってくる。そういった中でタイを始め、多くの国々がTPP参加に関心を示してくれていることに対して、それを心から歓迎したい。日本としてタイに関心を持っているということであるから、様々な情報提供であったり、今後支援をしていきたい。また事務レベルを含め、必要な様々な協議・議論を進めていきたい、こういった話をさせていただきました。

（記者）

タイの方ですけども、副首相からはなぜTPPに入りたいのかという、そのあたりの説明はあったのでしょうか。

（茂木大臣）

これから経済全体が新しくなっていくという中で、こういう自由で公正な新しいルールというのはタイにとっても非常に重要であると、こういった話をされていまして。また、ソムキット副首相が今様々な形の国内の制度改革を進めているという話がありましたので、私の方からTPPの高いスタンダード、これを実現するためには国内改革というのは各国において必要になってきて、まさにTPPに参加をすることが国内改革を加速することにも繋がるというお話をさせていただきました。

（記者）

実際にタイが加入するためには、すべての締約国の了承が必要となってくると思いますが、その橋渡し役といいますか、その役割は日本が担っていくという認識でしょうか。

（茂木大臣）

これから6月もしくは7月に首席交渉官会合を日本で開催をしたいと考えております。この首席交渉官会合においては、発効に向けた細目について詰める項目を詰めるのと同様に、11カ国の間で新規加盟に向けた基本的な方針であったり、考え方の共通認識を作っていく必要があると思っております。そういった点でも日本が各国との調整であったり、主導的な役割を果たしていきたい。そういった意味でもタイ、日本にとってASEANの中で最大の投資先国でありますし、世界の中で見ましても6番目の投資国と、こういう深い関係もあるわけでありまして、TPP各国との橋渡し役、これも果たしていきたいと思っております。

(記者)

タイも含めてですが、TPPに入りたいと言っている国・地域がありますが、拡大することの意義、特にアメリカの復帰に向けてメッセージを発する意味でも、TPPの拡大の意義というのはどのあたりにあるのでしょうか。

(茂木大臣)

自由で公正なルールにもとづく貿易であったり、投資、こういったものが世界経済発展の源泉である、基盤であると考えておりまして、今世界各地で保護主義が台頭するという中で、TPPの新しいルールを世界に広げていくということは、世界経済の発展にとっても極めて重要であると考えております。もちろん11カ国、アメリカが復帰してくれるということも期待しているわけでありまして、こういった形ですでに署名式を終え、さらには各国で国内手続きが予想以上のスピードで進んでおり、また多くの新規加盟の関心国が出ているということは、アメリカにとってもいい影響を与えるのではないかなと期待をしておりますし、改めてこの日米のFFR、新たな協議の中でもTPPの持つ意義であったり、それがアメリカにとってもメリットになるということをよく説明したいと思っております。

(記者)

確認ですが、今日ソムキット副首相はTPPに入るという意志を明確にしたということでしょうか。

(茂木大臣)

入るとするのは11カ国の側が決めることでありまして、タイとしては入りたい、こういう意思是明確にされました。

(記者)

期限はいつごろと言っていましたか。

(茂木大臣)

できるだけ早くと言っていました。

(記者)

茂木大臣に対してソムキット副首相から正式にTPPに入りたいという表明を受けたというような認識でよろしいですか。

(茂木大臣)

TPP参加についての正式な協議については、当然、TPPが発効後ということになるわけですし、まさに参加国の同意というのが必要となります。そういった意味で、正式に話をするというのには11か国に対してということになりますし、その手続等については、先ほど申し上げた通り、次回の首席交渉官会合で決めたいということですが、公の場でTPPに入りたいという意思を示されたということは事実でございます。

(記者)

タイ側から特にTPPに加入するときの課題というのは何か話されましたか。

(茂木大臣)

今日、ソムキット副首相との間では TPP の持つメリットや、それがタイにとってどういった効果をもたらすかについて議論をさせていただきましたが、それぞれ各国、それはベトナムであり、マレーシアであり、各国が参加にあたっての課題というものがあつたのでありまして、それを各国が乗り越えるという強い意志を持っていたということになります。細かいことについてはこれから事務レベルで説明させていただき、またそれを乗り越える工夫といいますか、その様なことについてもアドバイスをしていきたいと思っております。

(記者)

ソムキット副首相から日本側にこの様なことをして欲しいという要望はございましたか。

(茂木大臣)

細かい具体的な話というよりも、これからタイとしては TPP に早期に参加したい、こういう強い意志を持ち、また、国内的にも各省庁に指示をして準備を進めているところであるので、是非日本からも様々な形で情報提供等の協力をお願いしたいというお話がありまして、喜んで協力させていただくとお答えさせていただきました。

(記者)

ソムキット首相から具体的にどの様なメリットがタイにあるという様なお話はありましたか。

(茂木大臣)

二人の間で話をさせていただいたというところでは、大きく3点あつたわけですが、TPP に参加することによってタイは今 FTA をカナダ、メキシコとは結んでおりませんが、一気にバイの FTA 以上のものが獲得できる。同時に既存の FTA 締結国との間でもその内容について、さらに充実した深堀ができる。それが第1点です。第2点目としては、タイの投資先としての魅力度、またバリューチェーンの拠点としての魅力度を大きく高めることができる。そして3点目が、まさに今タイでも進めている国内での様々な制度改革、経済改革、そういったものを TPP 参加ということが後押しする。推進力になる。大きく言いますとその3点になるかと思えます。

(記者)

他に新規加盟国としては、どこをイメージしておりますか。

(茂木大臣)

現在、様々な形で発言がございしますが、南米でいいますとコロンビアが大きな関心を示しているのは間違いありません。そして、アジアにおいては、タイ、さらには地域としては台湾。さらには英国とこういった国が上がると思えますが、いずれにしろ我々としては、まずは11か国での早期発効、これに優先的に取り組み、発効後、速やかにこの新しいルールの世界への拡大について参加に関心を持つ国に対して様々な形での情報提供や、協力を行っていききたいと思っております。

(記者)

インドネシアはまだ新規加盟のレベルにはなっていないのでしょうか。

(茂木大臣)

レベルになっているかどうかわかりませんが、インドネシアからまだ正式な形で、その様な発表があったとは、私は承知しておりません。

(記者)

それらの国や地域の中で、タイが一番（新規加盟に）近いということでしょうか。

(茂木大臣)

どこが近いかわかりませんが、非常に有力な国であるというのは大方の一致する見方ではないかなと思います。

(記者)

商務大臣は出席されていたのでしょうか。

(茂木大臣)

その通りです。

(以上)